



札幌オリンピックを教材化

単元名「新しい日本、平和な日本へ」(7時間扱い)

単元を通して、我が国の「復興」と共に、「国民生活が向上したこと」と「国際社会の中で重要な役割を果たしたこと」が分かるようにする。

そのために、夏季東京オリンピックと冬季札幌オリンピックを取り上げる。終戦から19年後の1964年に東京オリンピック、27年後の1972年に札幌オリンピックを開催し、我が国は世界の国々から注目されるまでになった。「国際社会の中で重要な役割を果たしたこと」や「国民生活が向上したきっかけになったこと」を捉えるための具体的事例として、単元の中心にこの二つの社会的事象を据える。

【1970年頃の札幌市】

- ・人口：約100万人
- ・バスや市電が走り、暮らしに特に不便さはなかった。



【オリンピックをきっかけに】

- ・真駒内地区の開発
- ・地下鉄南北線が開通
- ・地下街ができる
- ・一般道路、高速道路の整備

⇒より暮らしやすい札幌に

☆高い評価を受けた札幌オリンピック

冬季札幌オリンピック終了から半年後の8月24日、ミュンヘンで開催されたIOC総会で、札幌市が名誉ある「オリンピック・カップ」を受賞した。この賞は、IOCが表彰する賞の中でも、最も権威のあるものであり、オスロ(1952年冬)、ヘルシンキ(1952年夏)、東京(1964年夏)に次ぐ榮譽であった。この評価は、大会運営や施設の整備が大変すぐれていたことに加え、市民の誠意のこもった態度が外国人に好印象を与えたことによるものであり、札幌市民の大きな誇りになった。

☆なぜ札幌でオリンピックを開いたのか！？

東京という日本の首都である都市と、寒冷地である地方都市「札幌」の違い。また、冬季大会には、夏季大会ほどの経済効果が望めない、大会後の施設の有効利用が難しいなどの問題があると言われる。札幌は戦争の大きな被害を受けたわけではないため「復興」という面では捉えきれない。そして、不自由な生活をしていた100万人都市にとっての国民生活の向上とは、その辺りも含めて「札幌」で開いた意味を明らかにしていく。

☆聖火ランナー

聖火リレーのランナーには、スポーツを愛好する15歳～20歳の男女16300人ほどが選ばれた。北海道の各都市をリレーでつなぎ大きな盛り上がりを見せた。部会員の父親もその一人である。最終聖火ランナーには札幌北高の辻村いずみさん、札幌旭丘高校の高田栄基さんが選ばれた。

次回に向けて

- ・東京や長野オリンピックとの比較
- ・当時の「札幌」の様子を聞き取る
- ・大会後の施設の利用状況
- ・1972年札幌オリンピックと「今」とのつながり

次回は 5月11日(水)

米里小学校 18時30分～
時間、車、服装、マナーなどにご配慮ください。欠席、遅参の場合は連絡をください。

文責：斉藤(伏見小)